

OSSTech Mailman 3 移行ガイド

Mailman 2.1 からの移行編



OSSTech 株式会社

更新日

2025 年 3 月 18 日

目次

1	はじめに	1
1.1	本書の目的	1
1.2	凡例	1
2	移行元 Mailman 2.1 環境の調査	2
2.1	設定ファイル群の調査	2
2.2	コマンドの実行結果の調査	3
3	Mailman 2.1 のメーリングリスト初期設定の移行	5
3.1	<code>mailman_defaults_style_plugin</code> プラグインの有効化	5
3.2	<code>mailman_defaults_style_plugin</code> スタイルの設定	5
3.3	Mailman 2.1 の <code>DEFAULT_*</code> 値の移行	6
4	Mailman 2.1 メーリングリストの移行	7
4.1	移行先メーリングリストの作成	7
4.2	移行元メーリングリストのデータファイルの取得	7
4.3	メーリングリストの設定と会員情報の移行	7
4.4	移行対象の Mailman 2.1 メーリングリスト情報	7
5	Mailman 2.1 メーリングリストの保存書庫の移行	10
5.1	メールボックス保存書庫の移行	10
5.2	Web 保存書庫の移行	10
6	Mailman 2.1 と Mailman 3 の仕様の違い	11
6.1	移行に考慮が必要な設定とデータ	11
6.2	Mailman 2.1 の制限会員の移行形態	12
7	更新履歴	14

1 はじめに

1.1 本書の目的

本ドキュメントは、OSSTech 社製品の Mailman 3 パッケージで構成されたシステムに Mailman 2.1 のメーリングリストを移行するためのガイドです。

1.2 凡例

インストールガイドの「[凡例](#)」を参照してください。

2 移行元 Mailman 2.1 環境の調査

適宜、移行元的环境を調査して、移行の条件や可否、データ量などを見積ります。

本書では、具体的な調査内容は掲載しません。弊社コンサルティングサービスをご利用のお客様にご案内・ご提供いたします。

本章では、移行元が OS 標準の mailman パッケージの場合の例を示します。移行元が OSSTech Mailman 2.1 の場合は、適宜、下記のように読み替える必要があります。

- パッケージ名:
 - mailman osstech-mailman
- パス名:
 - /etc/mailman/... /opt/osstech/etc/mailman/...
 - /usr/lib/mailman/... /opt/osstech/lib/mailman/...
 - /var/lib/mailman/... /opt/osstech/var/lib/mailman/...

2.1 設定ファイル群の調査

各種設定ファイルの内容を調査します。

2.1.1 OS

- /etc/os-release
- /etc/nsswitch.conf
- /etc/resolv.conf
- /etc/hosts

2.1.2 Mailman

- /etc/mailman/mm_cfg.py
- /etc/mailman/sitelist.cfg
- /etc/mailman/aliases
- /etc/mailman/virtual-mailman (存在しない可能性あり)
- /etc/mailman/templates (ディレクトリ)

2.1.3 Postfix

- /etc/postfix/access

- /etc/postfix/canonical
- /etc/postfix/generic
- /etc/postfix/header_checks
- /etc/postfix/main.cf
- /etc/postfix/master.cf
- /etc/postfix/relocated
- /etc/postfix/transport
- /etc/postfix/virtual
- /etc/aliases

2.1.4 Apache httpd

- /etc/httpd/conf/*.conf
- /etc/httpd/conf.d/*.conf
- /etc/httpd/conf.modules.d/*.conf

2.2 コマンドの実行結果の調査

各種コマンドの実行結果 (画面出力) またはコマンド実行によって生成されるファイルの内容を調査します。

2.2.1 Mailman パッケージのバージョン

```
# rpm -qa mailman
...
```

2.2.2 Mailman パッケージのファイル変更の有無

```
# rpm -V mailman |grep -E -v '/var/|\.pyc$'
...
```

2.2.3 メールングリスト数

```
# /usr/lib/mailman/bin/list_lists --bare |wc -l
...
```

2.2.4 代表的なメールングリストの設定の内容

広報用、組織内部情報共有用、公開議論用など、メールングリストの用途ごとの設定を確認するための参考情報とします。生成される<リスト名>.txt ファイルの内容を確認します。

```
# /usr/lib/mailman/bin/config_list -o <リスト名>.txt <リスト名>
...
```

2.2.5 独自メッセージハンドラーファイルの存在:

```
# LANG=C rpm -qf /usr/lib/mailman/Mailman/Handlers/*.py |grep ' '
...
```

2.2.6 メーリングリストごとのテンプレートのカスタマイズの有無

```
# find \
  /var/lib/mailman/lists \
  -maxdepth 2 \
  -mindepth 2 \
  -name '*.html' \
  -o \
  -name '*.txt' \
;
...
```

2.2.7 メーリングリストへの投稿数

```
# ls -l /var/log/maillog* /var/log/old/maillog*
...
# find /var/log \
  -type f \
  '(' \
    -name "maillog" \
    -o \
    -name "maillog*" ! -name '*[!0-9]' \
  ')' \
  -exec nice ionice -c3 grep -Ho '/mailman post ' {} + \
|uniq -c \
;
...
```

2.2.8 アーカイブの容量

```
# nice ionice -c3 find \
  /var/lib/mailman/archives/private \
  -maxdepth 1 \
  -mindepth 1 \
  -exec du --total -sh {} + \
;
...
```

3 Mailman 2.1 のメーリングリスト初期設定の移行

Mailman 2.1 は、メーリングリストを新規作成した直後の初期設定値を `mm_cfg.py` ファイル内の `DEFAULT_*` パラメーターで設定できます。しかし、Mailman 3 には同等の機能がありません。Mailman 3 では、リスト作成時に選択する「スタイル」に応じた初期設定が適用されます。

Mailman 3 標準のスタイルは、スタイルごとに初期設定パラメーターが固定されており、設定ファイルなどによる変更はできません。あらかじめ用意されたスタイルとは異なるリスト初期設定を適用したい場合は、別途、Mailman 3 のスタイルプラグインの開発が必要です。

一方、OSSTech Mailman 3 には `mailman_defaults_style_plugin` という名前の独自プラグインが用意されています。これを用いることで下記を実現できます。

- ・ 設定ファイルによるリスト初期設定値の設定
- ・ Mailman 2.1 の `DEFAULT_*` 設定の移行支援

このプラグインを有効化すると、プラグイン名と同じ `mailman_defaults_style_plugin` という名前のスタイルが追加されます。

3.1 `mailman_defaults_style_plugin` プラグインの有効化

このプラグインを使用するには、Mailman 3 のメイン設定ファイル `/opt/osstech/etc/mailman/mailman.cfg` に下記のような内容の `[plugin.mailman_defaults_style_plugin]` セクションを記述して有効化します。

```
[plugin.mailman_defaults_style_plugin]
class: mailman_defaults_style_plugin.Plugin
enabled: yes
```

このプラグインによるスタイルをメーリングリスト作成時のデフォルトにするには、同ファイルの `[style]` セクションの `default` 値にスタイル名 `mailman_defaults_style_plugin` を記述します。(任意)

```
[styles]
default: mailman_defaults_style_plugin
```

設定ファイルの変更を反映するには `osstech-mailman` サービスの再起動が必要です。

3.2 `mailman_defaults_style_plugin` スタイルの設定

このプラグインの設定は `/opt/osstech/etc/mailman/defaults_style.py` ファイルに記述します。

設定ファイルの変更を反映するには `osstech-mailman` サービスの再起動が必要です。

3.3 Mailman 2.1 の DEFAULT_* 値の移行

プラグインを有効化すると `mailman import21defaults` コマンドが使用できるようになります。このコマンドを利用して Mailman 2.1 設定ファイルの DEFAULT_* パラメーター群を `mailman_defaults_style_plugin` スタイルの設定ファイルに移行できます。

Mailman 2.1 の設定ファイルは下記のパスに存在します。

- RHEL 標準 Mailman 2.1:
 - `/etc/mailman/mm_cfg.py`
- OSSTech Mailman 2.1:
 - `/opt/osstech/etc/mailman/mm_cfg.py`

`mailman import21defaults` コマンドのコマンドラインに Mailman 2.1 の設定ファイル `mm_cfg.py` を指定して実行すると、`defaults_style.py` ファイルに使用できる内容を出力します。

```
# /opt/osstech/bin/mailman import21defaults mm_cfg.py
...
```

サポートされていない DEFAULT_* 設定が含まれている場合、`Unsupported variable: DEFAULT_<パラメーター名>=<値>` がエラー出力されます。

生成される設定内容を使用するには、下記のようなコマンドラインを実行して設定ファイルに配備します。

```
# /opt/osstech/bin/mailman import21defaults mm_cfg.py \  
|install \  
  --suffix=$(date --iso-8601=sec)~ \  
  --mode=0644 \  
  /dev/stdin \  
  /opt/osstech/etc/mailman/defaults_style.py \  
;
```

配備した設定ファイルを反映するには `osstech-mailman` サービスの再起動が必要です。

4 Mailman 2.1 メーリングリストの移行

4.1 移行先メーリングリストの作成

移行先の Mailman 3 のメーリングリストはあらかじめ作成しておく必要があります。

4.2 移行元メーリングリストのデータファイルの取得

移行元の Mailman 2.1 環境から移行対象のメーリングリストの データファイル `config.pck` を取得し、Mailman 3 環境へコピーします。

Mailman 2.1 のリストデータファイルは下記のパスに存在します。

- RHEL 標準 Mailman 2.1:
 - `/var/lib/mailman/lists/<リスト名>/config.pck`
- OSSTech Mailman 2.1:
 - `/opt/osstech/var/lib/mailman/lists/<リスト名>/config.pck`

このファイルは機密情報を含むため、取り扱いとファイル所有者/モードにご注意ください。

4.3 メーリングリストの設定と会員情報の移行

`mailman import21` コマンドを用いて Mailman 2.1 のメーリングリストデータファイル `config.pck` に含まれるリスト設定とリスト会員を Mailman 3 に移行できます。

```
# /opt/osstech/bin/mailman import21 \  
  new-listname@ml.example.com \  
  - \  
< config.pck \  
;
```

OSSTech 製品ではない Mailman 2.1 で日本語設定を使用していたメーリングリストから移行する場合は `--c harset=EUC-JP` オプションを追加して実行する必要があります。

4.4 移行対象の Mailman 2.1 メーリングリスト情報

`mailman import21` コマンドで移行の対象となるリスト情報は下記の通りです。

- メーリングリストの設定情報

- 一部は対象外。(下記参照)
- ・ メーリングリストの会員情報
 - Mailman Web ユーザーは作成されません。
 - パスワードは移行されません。

下記の Mailman 2.1 リスト設定は Mailman 3 のテンプレートファイルに移行されます。メーリングリストごとに `/opt/osstech/etc/mailman/templates/lists/<リスト ID>/<リストデフォルト言語>` ディレクトリ下に保存されます。

- ・ `goodbye_msg` (リスト退会者に送信する文章)
 - `list:user:notice:goodbye.txt`
- ・ `msg_header` (普通配送会員へのメールに付けるヘッダー)
 - `list:member:regular:header.txt`
- ・ `msg_footer` (普通配送会員へのメールに付けるフッター)
 - `list:member:regular:footer.txt`
- ・ `digest_header` (まとめ読みメールに付けるヘッダー)
 - `list:member:digest:header.txt`
- ・ `digest_footer` (まとめ読みメールに付けるフッター)
 - `list:member:digest:footer.txt`

下記の Mailman 2.1 リスト設定は Mailman 3 に移行されません。(将来の Mailman 3 バージョンで移行に対応する可能性があります)

- ・ `digest_size_threshold` (まとめ読みサイズのしきい値)
- ・ `topics` (話題フィルター)
- ・ `topics_bodylines` (話題フィルターによるメール本文の走査行数)
- ・ `topics` (話題キーワード)
- ・ `nntp_host` (NetNews ゲートウェイ)

下記の Mailman 2.1 リスト設定は Mailman 3 に存在しませんが、Mailman 3 の別のリスト設定・機能に組込まれる形で移行されます。

- ・ `from_is_list` (`From:` ヘッダーのメールアドレスをリスト投稿アドレスに置き換え)
 - `dmARC_moderation_action` (DMARC 拒否/隔離ポリシーを持つドメインからの投稿に対する動作) 設定と統合され、Mailman 3 の DMARC 対策の設定に移行される。

下記の Mailman 2.1 リスト設定は Mailman 3 に同等機能が存在しません。Mailman 3 のリスト設定データベースに項目が存在するため、設定値だけ移行されます。(将来の Mailman 3 バージョンで設定値に応じた動作に対応する可能性があります)

- `digest_is_default` (新規登録する会員の配信形式をまとめ読みに設定)
- `forward_auto_discards` (非会員からの投稿メールの破棄時に管理者へ通知)
- `member_moderation_notice` (制限会員の投稿を拒否したときの通知メールに含める文)
- `nonmember_rejection_notice` (非会員の投稿を拒否したときの通知メールに含める文)
- `obscure_addresses` (メールアドレス表示の曖昧化)
- `max_days_to_hold` (保留した申請の保存期間)

下記の Mailman 2.1 リスト設定は Mailman 3 に同等機能が存在しないため、移行の対象外です。

- `available_languages` (選択可能な使用言語のリスト)
- `host_name` (メールドメイン名)
- `equivalent_domains` (会員メールアドレスのドメイン名と同一と見做すドメイン名)
- `subscribe_auto_approval` (入会に承認が不要なメールアドレスのリスト)
- `new_member_options` (新規登録する会員に付与する会員オプション値)
- `member_verbosity_threshold` (会員の投稿数の上限)
- `member_verbosity_interval` (会員の投稿数の観測期間)
- `dmARC_none_moderation_action` (投稿メールドメインの DMARC ポリシーが「なし」のときの動作)
- `dmARC_quarantine_moderation_action` (投稿メールドメインの DMARC ポリシーが「隔離」のときの動作)
- `include_sender_header` (`Sender:` ヘッダーのメールアドレスをリスト投稿アドレスに置き換え)
- `umbrella_list` (親子リスト)
- `umbrella_member_suffix` (親リストのサフィックス)
- `regular_include_lists` (姉妹リスト)
- `regular_exclude_lists` (姉妹リスト)
- `regular_exclude_ignore` (姉妹リスト)
- `scrub_nondigest` (普通配送メールの添付ファイルを保管)
- `digestable` (リスト会員がまとめ読み配信を選択可能)
- `nondigestable` (リスト会員が普通配信を選択可能)
- `mime_is_default_digest` (まとめ読み配信のメール形式)
- `send_reminders` (毎月のパスワード備忘通知メールの送付)
- `url_host` (Web 画面 URL のサーバー名)
- `url_pattern` (Web 画面 URL のフォーマット文字列)
- `admin_member_chunksize` (Web 管理画面の会員リストのページサイズ)
- `archive_volume_frequency` (保存書庫のまとめ単位)

「Mailman 2.1 と Mailman 3 の仕様の違い」の章も参照してください。

5 Mailman 2.1 メーリングリストの保存書庫の移行

5.1 メールボックス保存書庫の移行

Mailman 2.1 のメールボックス保存書庫 (mbox 形式) を移行するには、Mailman 3 のメールボックス保存書庫 (maildir 形式) に変換する必要があります。

現在のところ変換する手段は用意されてません。

別途、[弊社コンサルティングサービス](#)のご利用をご検討ください。

5.2 Web 保存書庫の移行

Mailman 3 の Web 保存書庫に移行するには Mailman 2.1 のメールボックス保存書庫 (mbox 形式)、または相当するデータ (生のメールデータ) が必要です。Mailman 2.1 の Web 保存書庫 (HTML ファイル群) を Mailman 3 に移行することはできません。

Mailman 2.1 のメールボックス保存書庫は下記のパスに存在します。

- RHEL 標準 Mailman 2.1:
 - `/var/lib/mailman/archives/private/<リスト名>.mbox/<リスト名>.mbox`
- OSSTech Mailman 2.1:
 - `/opt/osstech/var/lib/mailman/archives/private/<リスト名>.mbox/<リスト名>.mbox`

`mailman-web hyperkitty_import` コマンドを用いて Mailman 2.1 のメールボックス保存書庫 (mbox 形式) を Mailman 3 (HyperKitty) の Web 保存書庫にインポートできます。

```
# /opt/osstech/bin/mailman-web hyperkitty_import \  
  --listname= listmanager@ml.example.jp \  
  listname.mbox \  
;
```

6 Mailman 2.1 と Mailman 3 の仕様の違い

6.1 移行に考慮が必要な設定とデータ

下記の Mailman 2.1 の設定やデータを Mailman 3 に移行する手段は用意されてません。

- ・ グローバル設定ファイル `mm_cfg.py` のパラメーター。
 - 設定ファイルのフォーマットや設定項目が異なります。
 - `DEFAULT_*` パラメーター群を移行するには「[Mailman 2.1 のメーリングリスト初期設定の移行](#)」の章を参照してください。ただし、一部対応していない `DEFAULT_*` パラメーターがあります。
 - そのほかのパラメーターや設定をどのように移行するか、あるいは移行不要か等は、個別に検討していただく必要があります。
- ・ 各種の管理用のパスワード。
 - サイト管理パスワード、リスト管理/司会/投稿パスワードは移行できません。
 - Mailman 2.1 の各種管理機能はパスワードのみで認証しますが、Mailman 3 ではユーザー名とパスワードによる認証しか対応してません。
- ・ 会員に関する一部の情報。
 - 会員のパスワードは移行できません。
 - 制限会員に相当するメンバーオプションはありません。「[Mailman 2.1 の制限会員の移行形態](#)」の節を参照してください。
 - 会員の表示名をメーリングリストごとに設定することはできません。(サイト全体で 1 つだけ設定可能)
 - 受信する話題の設定は移行されません。
- ・ メール / HTML テンプレートファイル。
 - メールテンプレートファイルの種類と形式が異なるため、個別に対応する必要があります。
 - Mailman 3 は HTML テンプレートに対応していないため、Mailman 2.1 の HTML テンプレートファイルは移行できません。
- ・ コマンドラインのインターフェイス。
 - コマンド名やコマンド仕様 (オプション、引数、動作、出力) が異なります。
 - Mailman 3 向けにスクリプトや運用マニュアルなどを改修する必要があります。
- ・ 独自のメッセージハンドラー。
 - 内部実装や API が異なるため互換性がありません。
 - Mailman 3 向けにメッセージハンドラーを移植 (プラグイン開発) する必要があります。
- ・ 配信を保留された投稿メール。
 - 審査待ち (保留中) の投稿メールは移行されません。
- ・ 入会申請と退会申請。
 - 審査待ち (保留中) の入退会申請は移行されません。
- ・ まとめ読み配信向けの未配信の投稿メール。

– OSSTech Mailman 3 はまとめ読み（ダイジェスト）はサポート対象外です。

6.2 Mailman 2.1 の制限会員の移行形態

Mailman 3 には、Mailman 2.1 のメンバーオプション「制限」設定（制限会員）に相当する機能がありません。この節では制限会員の移行仕様を解説します。

6.2.1 mailman import21 による制限会員移行の仕様

Mailman 2.1 の下記メーリングリスト設定は、Mailman 3 に存在しません。

- ・「新しく登録する会員のデフォルトを制限付き会員にする」(`default_member_moderation`)
- ・「制限付き会員から投稿があったときの動作」(`member_moderation_action`)

同様に、Mailman 2.1 のメンバー（会員）に付与可能なオプションの一つである「制限」フラグは、Mailman 3 のメンバーには相当するオプションが存在しません。

Mailman 3 の `mailman import21` は、Mailman 2.1 の「新しく登録する会員のデフォルトを制限付き会員にする」を下記のように移行処理します。

- ・ Mailman 2.1 の「新しく登録する会員のデフォルトを制限付き会員にする」が「いいえ」設定の場合：
 - Mailman 3 の「メンバーがリストに投稿したときのデフォルト処理」設定が「デフォルト処理」設定になる。
- ・ Mailman 2.1 の「新しく登録する会員のデフォルトを制限付き会員にする」が「はい」設定の場合：
 - Mailman 2.1 の「制限付き会員から投稿があったときの動作」設定が Mailman 3 の「メンバーがリストに投稿したときのデフォルト処理」設定に移行される。

メーリングリストのメンバー（会員）ごとに付与されている制限オプションの設定値は下記のように移行処理します。

- ・ Mailman 2.1 の制限オプションが付いていないメンバー（非制限会員）：
 - Mailman 3 のメンバーオプションの「審査設定」が「リストのデフォルト」設定になる。
- ・ Mailman 2.1 の制限オプションが付いているメンバー（制限会員）：
 - Mailman 2.1 の「制限付き会員から投稿があったときの動作」設定が Mailman 3 のメンバーオプションの「審査設定」に移行される。

6.2.2 mailman_defaults_style_plugin による制限会員移行の仕様

Mailman 2.1 の `mm_cfg.py` の `DEFAULT_DEFAULT_MEMBER_MODERATION` は、Mailman 3 の `mailman_defaults_style_plugin` の `defaults_style.py` の `DEFAULT_MEMBER_ACTION` に移行されます。

ただし、Mailman 2.1 の `mm_cfg.py` には `DEFAULT_MEMBER_MODERATION_ACTION` という設定は存在しません (メーリングリスト作成時の「制限付き会員から投稿があったときの動作」(`member_moderation_action`) 設定の初期値は設定できない。常に「保留」設定になる)。このため、Mailman 2.1 の `DEFAULT_DEFAULT_MEMBER_MODERATION` が `Yes` (`True`, `On`, `1` も等価) のとき、Mailman 3 の `DEFAULT_MEMBER_ACTION` 値は `Action.hold` (保留) に移行されます。

7 更新履歴

- 2025-03-18
 - 「移行元 Mailman 2.1 環境の調査」の章を追加。
- 2024-10-31
 - `mailman_defaults_style_plugin` の設定ファイル名を `defaults_style.py` に変更。
(osstech-mailman-3.3.9-9 以前は `defaults.py`)
- 2024-10-21
 - 初版。(インストールガイドから分離)
 - 「Mailman 2.1 のメーリングリスト初期設定の移行」の章を追加。